

平成22年度第1回北海道ブロック協議会
第1回北海道代協理事会
議事録

平成22年4月23日(金)pm1:00~5:00
於:札幌センチュリーロイヤルホテル

出席者

本部常任理事	高梨 重勝	函館	理事	見上 峰夫	札幌	理事	山吉 行雄	釧路
会長	向出 明彦	札幌	理事	山崎 善仁	札幌	理事	大高 喜弘	釧路
副会長	阿部 實	札幌	理事	廣瀬 禎	室蘭	理事	吉田 和彦	釧路
副会長	石岡 憲義	函館	理事	坂本 信一	旭川	理事	山田 和樹	帯広
副会長	長尾 忠正	釧路	理事	山本 仁	旭川	理事(代理)	内山 昌人	帯広
副会長	羽山 和広	帯広	理事	林 昌宏	旭川	監事	長太 義雄	札幌
副会長	小谷田正彦	旭川	理事	鈴木 雅裕	小樽	監事	木下 裕章	小樽
専務理事	山口 史朗	札幌	理事	佐藤 聖	苫小牧	監事	本村 宏文	千歳
常務理事	末原 正二	札幌	理事	古宇田 渉	苫小牧	事務局員	藤田 和代	札幌
理事	佐々木雅之	札幌	理事	多和 康司	千歳			
理事	町野 泰明	札幌	理事	小野 修	函館			

司会 専務理事 山口史朗

1. 開会の辞(末原正二)

2. 会長挨拶(向出明彦)

- 1、私自身、今年度にて会長の職を辞したいと考えている。在職中には、3単協が1単協になる、社団法人北海道損害保険協会の立ち上げ等の経過はあるが、在職中の総括は考えている。
- 2、総会への準備、役員の変更と、盛りたくさんの案件が議題に上程されているので活発な議論をお願いしたい。

3. 日本代協常任理事挨拶(高梨重勝)

- 1、本部役員として1期残ることとなり、東北、北海道を担当することとなった。
- 2、日代協の組織、役員の変更があり、単協支部会員の意見を吸い上げ、本部の議論に繰り入れたい。

4. 倫理綱領の朗読(吉田和彦)

5. 議長選出

議長には石岡憲義副会長(函館)が指名され、承認を得た。

また議事録作成者:末原正二常務理事(札幌)、議事録署名人に山口史朗(札幌)、山崎善仁(札幌)各氏が指名され了承を得た

6. 議 事

[I] 報告事項

(1) 各支部報告(会議資料参照)

(2) 日本代協常任理事報告(高梨重勝)

- 1、「活力ある代理店制度研究会」の会議が持たれ中間報告がされた。整理されていないので文章として公表はできないが、①委託契約書、②口座手数料、③代理店経費、④事故処理フィー等が議題にあがり議事録として報告された。
- 2、日本代協が申請していた、「公益法人化への申請」(別紙参照)を一旦取り下げることを決定した。政治情勢を把握し、再度内容を検討して申請したい。

(3) 日本代協理事報告(向出明彦)

- 1、民主党政権においては、「公益法人」のあり方、税金の問題も含めて検討されており、本会の公益法人化はかなりハードルが高いのではないかと思う。
- 2、本部への会費1万円、損協からの協力金6300万円などの項目については、今後議論を必要とするのではないかと思う

(4) 日本代協委員会報告

(I) 企画環境委員会(吉田和彦)

平成22年1月22日、平成21年度第4回本部会議

「活力ある代理店制度研究会」の会議議事録が中間報告された。

会議資料参照

(II) 教育委員会(山崎善仁)

- 1、第13期保険大学校受講者募集者(別紙参照)、目標数の達成を要請された。
- 2、今年度の保険大学校セミナー、更新研修、試験等、順じ案内をする。
- 3、2月28日にBSジャパンにて放送された「どう選ぶ損害保険」のCDが用意してあるので希望の会員は知らせて欲しい。

(III) 組織委員会(向出明彦)

会議資料参照

(IV) 地球環境委員会(林 昌宏)

会議資料参照

(5) 北海道代協委員会報告

各委員会の活動については会議資料参照

1、苦情処理委員会(吉田和彦)

「公正な自動車保険(任意保険)募集に関する件」(会議資料参照)

決定事項—配布することに決定

- 当初は「支部地域の自動車ディーラー、販売店の本店」に3人くらいのチームで配布した方がよい。
- 会長印を押印したほうがよいので、各支部は配布先の一覧を北代協事務局へ知らせて欲しい。

[II] 審議事項

(1) 平成21年度事業報告(会議資料参照)

本件は末原正二常務理事より詳細な説明報告があり、議長は報告に基づき議会に図ったところ、満場異議なく原案通り承認可決された。

(2) 平成21年度決算報告及び監査報告(会議資料参照)

本件は末原正二常務理事より平成21年度掲題財務諸表につき詳細な説明報告があり、ついで会計監事、長太義雄氏より当年度会計および事業執行に関する監査の結果、いずれも適法、正確である旨の監査報告がされた。

議長は、上記の報告に基づき本議案を議会に諮ったところ、満場異議なく原案通り承認可決された。

(3) 平成22年度事業計画(案)(会議資料参照)

本件は各委員会、委員長より平成22年度事業計画策定に当たっての基本的な考え方、具体的諸案件について、順次詳細な提案趣旨説明が行われた。

議長は、提案報告に基づき本議案を議会に諮ったところ満場異議なく原案通り承認可決された。

☆ 訂正箇所一組織委員会 4、新年交礼会の開催、「札幌支部が幹事→札幌支部が中心に訂正」

(4) 平成22年度予算(案)(会議資料参照)

本件は末原正二事務局長より平成22年度事業計画案策定に伴う収支予算案編成について、詳細な積算内容の説明報告があり、議長は、報告に基づき本議案を総会に諮ったところ満場異議なく原案通り承認可決された。

(5) 役員改選

1 退任を申請している役員

会長 ー 向出明彦(札幌)

副会長 ー 阿部 實(札幌)、長尾忠正(釧路)、石岡憲義(函館)

常務理事ー 末原正二(札幌)

2 次期会長は山口史朗専務理事(札幌)に要請し、快諾を得ている

3 その他後任人事については向出会長に一任とする。

(6) その他

◎ 北海道代協会費の検討(会議資料参照)

高梨常任委員 ① 日本代協本部の運営として、1会員の会費1万円、損協からの協力金6300万円がないと運営は大変だと思う。

② もし自主的な活動を目指し、協力金がなく(保険会社からの拠出

がすくなくなる可能性もある)、運営上会費を2万円とすると会員は半分くらいになるのではないかと。

鈴木理事(小樽) ★支部は任意団体ではだめなのか

☆会議資料からも支部を「組織内機関とする」あるいは「独立した団体」があるが、後者のほうでは「一般社団法人」の名称は使えない。又ガバナンスの問題からも支部に格差があってよいのか。

☆包括的任意団体としても、「連結決算」、会計上の「フォームの統一」が必要と思われる

○ 各支部の意見

旭川支部ー★2つのあり方は合法か、コンプライアンス上とあるが、何が問題か。

○税理士からの助言として一般社団法人の会計上、一体化の観点上問題(支部の事業益)があるといえるが、支部の会計規模から行くと、それほど目立つものではないとのこと。

札幌支部ー★組織の強化の為には一元化が望ましい。又「行動する代協」を標榜している観点から、損協からの協力金には問題がある。

室蘭支部ー★一元化の方向がよい。1、支部会員会費を全額本部に送り、本部会費を除いた分を支部に送金する。2、本部会費のみを送る。どちらなのか。

○現状ではどちらでもよいと思う。

★会費の値上げについては、体制のあり方(損協よりの協力金により、行動が制限される)に納得するなら、応じる会員はいると思う。

小樽支部ー★どちらでもよい。損協からの協力金を除いても、ものの言える任意団体でありたい。

苫小牧支部ー★支部の位置づけは「組織内機関」とすべきだ。会費はいったん本部に入れ、会費以外は名目はあるが返却して欲しい。会費が2、3万になろうと組織のあり方、内容が問題だ。

千歳支部ー★一元化賛成、いずれやらなければならないと思う。

函館支部ー★会費の6割が月期払いなので、本部への送金時期を考えている。会費の一元化については、現行の会費と比較すると危惧する面がある。

★損協からの協力金については、会員は減るが組織としては強固になるのではないかと。しかし倫理綱領の文面から「保険会社との友誼的關係」とあるのでこれも考慮しなければならない。

釧路支部ー★一元化の目的がいまいち理解できないので、急いである必要がない。

○全国の社団法人代協から見ると、地域事情もあるが不自然である。また一般社団法人 北海道代協には会計上独立した支部はない、現在はいびつな関係にある。

帯広支部ー★単一単協なので行動、活動の本質は一つでなければならないのではないかと。それからいくと会費、意識は一体化する方向に進むべきだ。

★小さい組織体なったとしても、生き残る体制にしなければならないのではないか。

○会費の一体化は今すぐ決めなければならないというわけではないので今後1年の期間で何回かの議論が必要だ。

審議決定事項－各支部は組織内機関とする。

- 北海道代協総会に各支部よりたくさんの出席を要請したい。

7. 閉会の辞(阿部 實)

議事録作成者 末 原 正 二

議事録署名人 山 口 史 朗

議事録署名人 山 崎 善 仁